

出向く宮農レポート

～アグリスクールで一から学び、産直出荷者・部会員として良質な農作物の栽培に取り組む～



北部宮農センター瀬戸地区担当
井上 達幾

女性のアグリスクール卒業生の井野砂子さんが管理されている圃場を訪問しました。井野さんは卒業後、多品目栽培に取り組み、瀬戸グリーンセンターとれたた館へ出荷していただいております。今年度はプチヴェール®の栽培を提案し、部会員として取り組んでいただいております。

井野さんは農薬の使用を極力控えた栽培にこだわり、防虫ネットなどの資材を活用して害虫対策を行っています。しかし、今年の夏は害虫の発生が非常に高い傾向にあることと、栽培初年度でもあり絶対に成功してほしいという思いから農薬も活用した栽培を提案しました。害虫の被害を受けやすい定植初期に農薬(モスピラン粒剤)を使用することで、初期段階での失敗を回避します。その後も農薬不使用では収穫まで到達できない可能性があるため、有機JAS栽培でも使用できる「ゼンターリ顆粒水和剤」を提案して初年度の初収穫を目指します。

モスピラン粒剤

定植時に植穴に処理することで、チョウ目やアブラムシなどの害虫による被害を抑えます。

- 希釈倍率: 1g/株
- 使用時期: 定植時
- 使用回数: 1回



ゼンターリ顆粒水和剤

チョウ目害虫に効果のある農薬です。有機JAS規格の定める有機農作物の生産に使用可能。

- 希釈倍率: 1000～2000倍
- 使用時期: 発生初期、但し収穫前日まで
- 使用回数: 制限なし



※使用に際しては製品ラベルの記載内容に従ってご使用ください。

井野さんにインタビューしてみました!!

Q アグリスクールに参加してみてどうでしたか。

A 農業の経験が全くなかったのですが、種のまき方や肥料、水やりなど基礎をこまかなところまで教えていただけたのですごく勉強になりました。“野菜ってこうやって育つんだ”と体験を通じて感じました。

また、アグリスクールの仲間は今でも情報共有したり、一緒に苗を頼んだり交流しており心強い存在です。

Q 出荷についてどう感じましたか。

A JA職員から「自分が買うつもりで出荷してください」という言葉をかけてもらい、消費者の立場になって綺麗な野菜を出荷するよう心掛けたり、手にとってもらいやすいように品種名を記載したシールを貼るなど、工夫を重ねて出荷をしています。気付いたら出荷を始めて5年目でした。自分が出荷した野菜が売れるとやはり嬉しいです。

